

通じ曹河と稱す。幅僅に二米突餘、石橋を架せり。曹楊村より、此處に到る道路は皆凹道にして、路側は緩傾斜或は斷絶の處を交ゆ。然れども其の斷絶地の最高處も、纔に三米突を過ぎず。西行約一里新田村(人家約二十戸)の間は、道路平坦路側には溝渠竝に老柳ありて附近は人家稠密せり。チエンタン尖當舖を経て、豊橋に到る。一に三里橋と云ふ、其の間の路側亦溝渠を通じ、老柳列植せられ路面は路側より始めて高し。河あり豊河と名づけ、河幅約二十米突堅牢の石橋を架せり。次で西北行して河南寨(人家約五十戸)を過ぎ、渭河の渡に達す。河幅六百米突餘、流幅二百米突五隻の渡船を備へ、渡河六分時を要す、登岸すれば即ち咸陽の東門に到る、道路幅五米突乃至八米突土質は黒土且つ砂を交ゆ行程約七里。

地勢は西安の西門より十里堡に到る迄は、開濶小波狀を成し、次で橋鎮に到る迄は開濶大波狀を成し、其以西は平坦開濶なるも、新田村附近は村落密在する爲め通視し得ず。本日途上、蘭州名産の水烟(一種の烟草)を載せ、西安に向ふ多數の駱駝及馬車に會し、且つ咸陽に近づく頃、數多の羊を逐ふて、西安に到る牧畜者に遇へり。

咸陽城は周圍約一里、人戸約五千、磚製の城壁之を繞れり。官衙には縣衙門、學堂

渭河の渡  
船

## 咸陽城